

調査

LOBO 早期景気観測

3月分 日商調査日 3月8日～19日
当所調査日 3月8日～22日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

3月の全産業DI ▲35・3
(前月比+11・5ポイント)

○中小企業の景況感

デジタル投資の増加を背景に需要が伸びている半導体関連や堅調な自動車関連の製造業のほか、飲食料品・家電製品を中心に巣ごもり消費に下支えされた小売業で業況感が改善した。また、一部地域では、緊急事態宣言の解除に伴い、飲食店などで日中の客足が回復し、売上に持ち直しの動きがみられた。しかし、原油価格の上昇による燃料費の増大などのコスト負担増や年度末の資金繰りを不安視する声も多く、中小企業の景況感は持ち直しの兆しがみられるものの、依然厳しい状況が続く。 ※業況DI改善も、比較対象の前年同月(2020年3月)は新型コロナウイルスウィルス感染拡大によりDIが過去最大の悪化幅(2020年2月比▲16・4)を記録した時期であることに留意が必要。

○先行き

先行き見通しDIが▲29・1(3月比+6・2ポイント)。ワクチンによる感染抑制や、緊急事

態宣言解除に伴う客足回復への期待感から、小売業や飲食業を中心に持ち直しを見込む。

一方で、雇用調整助成金の特例措置などの政策効果剥落後や資金繰りの悪化、経済活動の再開に伴う感染再拡大への懸念のほか、原材料費や燃料費の上昇などによる採算悪化を不安視する声も多く、警戒感が続く。

【関連ブロックの業況(2020年12月時点)

公共工事は国土強靱化計画の予算増を受け、今後も受注増を見込んでいる。ただし、企業の設備投資については減少傾向が続いているほか、鋼材などの資材価格上昇による採算の悪化を懸念している(一般工事業)。

産業用ロボット、半導体製造用、プラスチック成型機の受注が伸び、売上は改善。ただし、原材料価格が上昇しているため、今後は販売価格を交渉し、採算確保を図る必要がある(金属熱処理業)。

当所調査

「新型コロナウイルスの影響から、DIは依然低迷」

全体平均DIは▲33・7ポイントで、前月に比べ5・1ポイント改善したが、新型コロナウイルス感染症の影響で景況感は依然として停滞した状況である。項目別では、前月と比較し採算前年が13・5ポイント改善し、仕入先行きは17・2ポイント悪化した。採算が改善され、回復の見通しが見られるが、原材料、燃料費の上昇による仕入額の増加が不安視される。

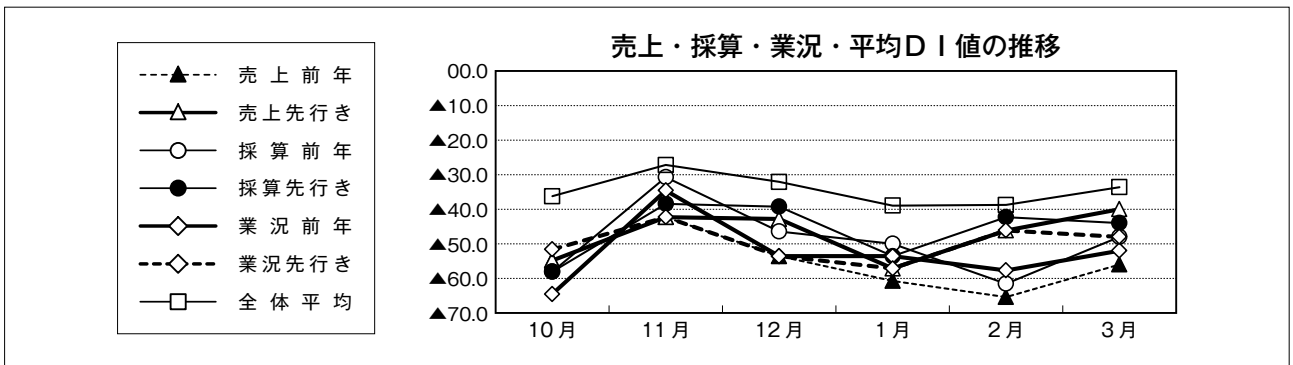
寄せられたコメントには「新車・中古車販売や鍍金関連は前年並みだが、ガソリン価格の上昇に伴う部品関係の値上がり懸念される」(自動車整備業)という声が聞かれた。

水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(全産業)

(サンプル数40社)

項目	令和2年				令和3年		
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
売上前年	▲55.2	▲54.8	▲42.3	▲53.6	▲60.7	▲65.4	▲56.0
売上先行き	▲51.7	▲54.8	▲42.3	▲42.9	▲57.1	▲46.2	▲40.0
採算前年	▲58.6	▲58.1	▲30.8	▲46.4	▲50.0	▲61.5	▲48.0
採算先行き	▲55.2	▲58.1	▲38.5	▲39.3	▲53.6	▲42.3	▲44.0
仕入前年	▲24.1	▲22.6	▲23.1	▲28.6	▲21.4	▲26.9	▲36.0
仕入先行き	▲24.1	▲25.8	▲26.9	▲32.1	▲32.1	▲30.8	▲48.0
社員前年	17.2	9.7	15.4	10.7	▲3.6	0.0	16.0
社員先行き	17.2	6.5	3.8	7.1	▲3.6	0.0	8.0
業況前年	▲65.5	▲64.5	▲34.6	▲53.6	▲53.6	▲57.7	▲52.0
業況先行き	▲62.1	▲51.6	▲42.3	▲53.6	▲57.1	▲46.2	▲48.0
資金前年	▲27.6	▲38.7	▲38.5	▲25.0	▲39.3	▲46.2	▲24.0
資金先行き	▲27.6	▲22.6	▲26.9	▲28.6	▲35.7	▲42.3	▲32.0
全体平均	▲34.8	▲36.3	▲27.2	▲32.1	▲39.0	▲38.8	▲33.7



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。